



計画的な種粃の浸種・催芽作業を！

令和5年産水稻種子は、昨年の高温の影響により休眠が深い傾向にあります。通常年の種子予措では発芽が悪くなる恐れがありますので、以下の対策をご検討ください

浸種のポイント

① 浸種期間を長くする (2~3日程長く浸ける)

例：通常年の浸種日数は5~6日間ですが、令和5年産種子は7~9日間種粃の浸漬を行う

② 浸種水温は10~12℃とする

③ 水の交換は2~3日に一度交換する
(種粃に必要な酸素の供給のため)

④ 種粃を詰め込みすぎない
(ネットの7割程度)

催芽のポイント

① 催芽温度を30~32℃に維持

② 催芽時間は20時間(※1)

③ 芽の長さはハト胸から2mmまで(図1)

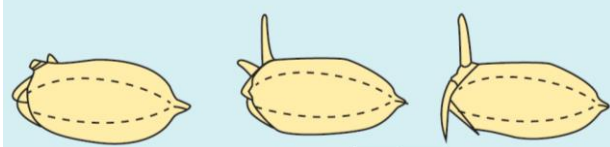


図1 催芽の程度 (「イネの生長」、1975 星川)

※1 催芽時間は種粃の年産や品種によって異なるため、こまめに状態を確認しましょう

農作業事故に注意しましょう！